

主 題：天の御国に入る

聖書箇所：マタイ 13章 24－52節

どうぞマタイの福音書の13章をお開きください。ここでは主が七つのたとえをもって、天の御国について教えを与えておられます。

1. 種が蒔かれた四つの地

最初のたとえは、四つの地に種が蒔かれるという話です。このたとえが教えていることは、福音に対する応答です。最初の三つは誤った応答をしました。そして最後の一つは福音を心から信じ、救いに与ったという正しい応答が記されています。

2. 良い麦と毒麦 24－30節

今朝、私たちは二番目のたとえから、主が天の御国についてどんなことを教えておられるのかを一緒に見て行きます。なぜこのレッスンが大切なのかというと、天の御国というのは私たちひとりひとりがしっかりと覚えるだけではなくて、自分のものとしなければいけません。天国の話、自分の永遠についての話だからです。ですから、主がそのことについて教えておられる大切なメッセージを今から一緒に見てまいりたいと思います。

マタイ 13:24－30

：24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こういう人にたとえることができます。

ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。

：25ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。

：26 麦が芽生え、やがて実ったとき、毒麦も現われた。

：27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょうか。』

：28 主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』

：29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。』

：30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』

この二つ目のたとえのあらましは、よい麦が蒔かれた畑に毒麦が蒔かれたと。まさにこの毒麦を蒔くという行為は敵意に基づいた行為でした。この毒麦を蒔いた敵の目的は収穫を邪魔して主人に損害をもたらすことです。今私たちはこのたとえを見たわけですが、これから見て行くとえも実はそうなのですが、当時、この主イエス・キリストの話を聞いていた人々は、このたとえをよく理解したのです。こういったことは実際に行なわれていたからです。架空の話をしたのではない。実際に起こっている話を、また実際に彼らが見たことのあるものを使って、主はメッセージを与えられたのです。毒麦というのは実際に存在していたのです。そして当時の農夫はこの毒麦に非常に頭を悩ましていました。毒麦が生えると取り除くのが非常に難しかったとバークレーは言っています。毒麦というのは細麦と呼ばれる一種の雑草だったのです。そして穂が出るまでは毒麦と見分けがつかなかったのです。実際にこの毒麦には少量ですが、軽度の毒が含まれていました。ですから、これを食べてしまうと、めまいや吐き気、しびれを起こしたのです。また少量でも毒麦は食べたらとても苦くて嫌な味がしたようです。

どうやってこれを選り分けたかということ、たとえの中でイエス様は収穫の時まで待ちなさいと言われました。実際に当時もそうしたのです。バークレーがレヴィソンという人の説明をこんなふうに挙げています。「毒麦を取り除く操作は大抵脱穀が終わった後に行なわれた。女性たちは大型のお盆の上に穀物を広げて毒麦を取り除いたのです。確かに毒麦はよい麦と形や大きさはよく似ているのですが、色が違ったのです。石板色——スレートグレイと言われ、青みを帯びた灰色をしていたのです。ですから、穂を見た時にこれが毒麦なのかどうかという判断ができて、選り分けることができた。実際に人々はそういうことを行なっていたわけです。

◎ 主の説明 37－43節

さて、私たちがこういうたとえ話というものを見る時に、特にしなければならないことは、たとえ話の中の要点をつかむことです。この中心的なメッセージが一体何か——。つまりこのたとえを用いて何を語りたかったのかを我々はしっかりと見きわめなければなりません。今私たちが見ているたとえの要点とは一体何だったのか——。実はおもしろいことが聖書の中に記されています。マタイ 13:1に、「その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。」とあり、マタイ 13:36に「それから、イエス

は群衆と別れて家にはいられた。」とあります。ということはイエス様はあるガリラヤ湖の家におられ、それを出て群衆と時間を過ごした後、再びその家に戻ったのです。そして36節が教えるのは、群衆から離れてご自分の弟子たちとだけおられた、その家の中での出来事です。そこで弟子たちが御もとにやって来て「畑の毒麦のたとえを説明してください。」と質問するのです。聞いていた弟子たちは、ここでイエス様が言いたいこと、このたとえの要点を彼らはちゃんとつかんでいました。それは、毒麦についての話なのです。ですから彼らはそれについての説明を願いたい、主に求めるわけです。

マタイ13:37-39

:37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。」

:38 畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。

:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。

① ことばの説明 37-39節

今七つのことが出て来ました。そのことばについて主ご自身が説明をされています。

(1) 「良い種を蒔く者」は主イエス・キリストご自身で、ご自分のことを「人の子」と呼んでおられます。見て来たように、神である方が仕える者として来られた、そのように謙遜なお方である「人の子」です。イエス様の話です。

(2) 「畑」とはこの世界です。

(3) 「良い種」とは真のクリスチャンたちです。「御国の子どもたち」と書いています。

(4) 「毒麦」とは、イエス様をまだ信じていない人たち、「悪い者の子ども」とあります。「悪い者」とはサタンです。

(5) 「毒麦を蒔いた敵」、それはサタンのことであり、そしてサタン、悪魔の子どもたちの話です。

(6) 「収穫」とは「この世の終わり」です。

(7) 「刈り手」とは天使たちだと。

② たとえの要点 40-43節

ことばを説明された後で、このたとえの中でイエス様が言いたかったことは二つです。一つは主のさばきがあるということです。そして二つ目が神様の祝福があるということです。さばきと祝福の話をなさったのです。

(1) 主のさばき 40-42節

マタイ13:40-42

:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。

:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、

:42 火の燃える炉に投げ込みます。

これはさばきの話です。少し説明したいのは、「御国から取り集めて、」と書いてあるので、「天国から奪い取るのか？」という疑問がわきますが、そういう話ではないことは明らかです。なぜかという、それ以外のところでは「天の御国」と記されています。ここは「御国」です。「御国」というのは王国の話です。王国には王様がおられる。確かにサタンが支配して、サタンがさまざまなことをなしているわけですが、それはすべて主権者なる神の許可のもとにです。ですから、すべての王は神である、それには変わりがない。ですから、「御国」と言った時に、天国ではなくて神様の支配しておられるすべての世界の話です。そして、その中からある人々は大変な苦しみに至るという話です。なぜなら42節の終わりに「彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。」と記されています。大変な苦しみ、神様のさばきの話です。

(2) 主の祝福 43節

そして43節、「そのとき、正しい者たちは」と、対照的に神の前に正しい、つまりクリスチャンたちの話が記されています。「天の父の御国で太陽のように輝きます。」と、「天の父の御国で」と、明確にそれが天国での話です。そこにあって彼らは太陽のように輝くと。栄光の体をいただいた信者はますます神様の栄光を現わし続けて行くわけです。そういった祝福に与るのだという話がここにされています。そして43節の最後に「耳のある者は聞きなさい。」、大切なメッセージだから聞きなさいと言うのです。

このたとえをもってイエス様は何をお教えになったのか――。

① 主の働きに対するサタンの妨害がある

一つ目は、主の働きがなされる時に、必ずそこにサタンの働きがあるということです。サタンは必ず主の働きを妨げようとするということです。この世界でもそうです。いろいろな形で福音が広がって行くことをサタンは阻止しようとしします。サタンはいろいろな人たちを用いて主の働きが広がって行かないように働きます。だから皆さんが一生懸命伝道しておられても必ずその働きを邪魔しようとする者が

出て来ます。皆さんが主に忠実に生きて行こう、みことばに忠実に生きて行こうとする時に、必ず皆さんを邪魔して、皆さんの信仰をくじくような力が皆さんに迫って来ます。それは皆さんもよくご存じです。今たとえで見たように、良い麦が蒔かれたら必ずサタンもそれを放っておきません。毒麦を蒔くのです。

それはこの教会の中を見てもそうです。非常に恐ろしい主のメッセージは、教会の中で神のみわざがなされる時に必ずそこにサタンの働きもあると言うのです。教会史や初代教会を見た時、イエス・キリストを信じておられない人たちがクリスチャンのようにして教会の中にいるという悲しい現実です。彼らの目的は一つ、神の働きを邪魔しようとするのです。さまざまなことをもって教会を混乱させようとします。主のみことばではなくて世の中の常識や世の中の考え、そういった教えによって人々がみことばから離れて行くように、クリスチャンを惑わしたり、そこに来られている未信者を惑わしたりする、残念ながらそういった働きは現実の問題としてあります。よい麦が蒔かれる時には必ず毒麦が蒔かれる。サタンは放っておきません。

② 主によるさばきがあること

二つ目に言えることは、必ず主によるさばきがあるということです。確かにサタンは必死になって、主の働きを妨げようとしますが、必ず主のさばきが下るのです。そしてそのさばきは永遠の地獄であることを聖書は教えています。マタイ 25:46 でイエス様が「この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。』」と言われます。ある人たちは永遠の刑罰に至り、ある人、つまり正しい人たちは永遠のいのちに入る、どちらかで永遠を過ごします。地獄に入って永遠を過ごすのか、永遠のいのちを天国で過ごすのかどちらかです。

少し地獄の話をする、42節で「彼らはそこで泣いて歯ぎしりする」とイエス様が言われます。なぜ彼らはそこで泣くのか——。この泣くと訳されていることばは、「悲しみ」、「悲嘆する」、「嘆き悲しむ」ということです。恐らくその時になって自分たちが誤っていたこと、自分が間違っていたことに気づくわけですから、そこでどんなに泣いたって、どんなに嘆いたってその人に救いはありません。救いの機会を逃してしまっただけです。ですから、地獄に行っても楽しいことがあるか、とんでもない、そこでは泣き声しかないのです。人々はみずからの選択が誤っていたことに気づかされて嘆いているのです。「歯ぎしり」ということばが出て来ます。これは「苦しむ」という意味です。苦しみや痛みといった感情の表現なのです。そこにあって、今までに味わったことのない苦しみや痛みを経験している様子がこのように記されています。ですから、このたとえをもってイエス様が教えになろうとしたことは、神の働きがなされる時は必ず悪魔の働きがあり、そして必ず神様のさばきがあるのだということです。神に逆らい続けた者たちには、必ず永遠の地獄が約束されていると、主はその保証をここで与えておられます。

③ まだ、救いのチャンスがあること——この祝福に与ることができる！

このたとえが教えていることを、もう一つ挙げるとすると、それはまだ救いのチャンスがあるということです。まだこの祝福に与ることができるのです。なぜかと言うと、しもべたちがやって来て、「毒麦を抜きましようか」と言ったのを、主人が「収穫まで待ちなさい」と言います。「収穫」とは「世の終わり」の話だとイエス様ご自身が説明なさいました。(39節) 実は今もそれが起こっているわけです。神様は今この世をさばいてもいいけれども、まだきょうこの時点でさばきは来ていないのです。きょうが終わりの日かもしれません。でもこの時点でまだ終わりの日が来ていない。ということは神はまだこの救いを受け入れていない人々に救いの手を差し伸べているということです。まだ救いのチャンスがあるということです。でもそのチャンスがなくなる時がやって来ます。神様がこれまでと言われる時がやって来ます。最後の一人がこの救いに導かれる時が来ます。その後には確実にさばきが来ます。もしこの中でこの救いをお受けになっておられない方がおられるなら、耳をしっかりと開いてこの神のメッセージを聞くことです。神はあなたに救いの機会を備えてくださり、あなたを招いておられる。

☆ この世における我々信仰者には大切な責任がある。

さて、その話をした後、からし種のたとえとパン種のたとえの二つが続いて出て来ます。この二つは非常に関連しています。というのは、今私たちが見て来たように、神の働きがなされる時にサタンの働きがなされる。そういう世界に我々は生きているし、残念なことにそういう教会の中に我々はいるのです。その中にあって私たちのなすべき責任についての二つのたとえがここに記されています。

3. からし種 31-32節 「成長」

マタイ 13:31-33

:31 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、

:32 どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」

:33 イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パン種のようなものです。女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れると、全体がふくらんで来ます。」

最初にお話ししたように、からし種の話もパン種の話もその当時の人々がよく知っている話でした。からし種は非常に小さいものです。もちろん世界に行けばそれよりまだ小さい種があるのですが、パレスチナの地においては最も小さい種の一つです。しかし、イエス様が言われたように、それを蒔くとある木は数メートルまで大きくなって、ここに言われているように、鳥がその枝に巣を作るように生長します。マタイ 17 章にもからし種の話が出て来ますが、そこでは信仰の成長について説明されています。ここでは信仰の成長の話ではありません。確かにイエス様ご自身がこのたとえについて説明を加えていないために、いろいろな説がありますが、どうも流れを見ると、ここでは主の教会が大きく成長することを教えています。この当時はまだ教会も誕生していなくて、最初はからし種のように非常に小さなものでした。でもそれが非常に大きなものに成長して行く。それを我々は実際に見ているわけです。もちろん教会の中にはすべてがクリスチャンであるわけではありませんが、でも確かにこの教会というのは大きく成長しました。

4. パン種 33節 「影響」

そのことに関してパン種もよく似ています。説明するまでもなく、パン種というのは小麦粉をこね合わせたパン生地を発酵させるものです。今で言ったらドライイーストです。当時は発酵したパン生地の一部を残して、また次に使ったのです。そうやって彼らは発酵のためのイーストを入れてパンを作りました。ですからこのパン種の話をした時に、読者はちゃんとやっていることがわかりました。小さなパン種がその粉全体に大きな影響を及ぼすという話です。このパン種の話を用いて恐らくイエス様は影響力の話をなさったのでしょう。それが証拠に、このパン種というのは、悪いことの代表のように使われています。例えば主イエス・キリストはパリサイ人の偽善と間違った教えをパン種と呼んで非難されています。また人々に注意しなさいと言って警告を与えています。なぜそんな警告を与えたかという、彼らの間違った教えが人々に広がって行くことを指したわけです。その間違った教えがいろいろな影響を及ぼすことを警告したわけです。ですから、いい話にしる悪い話にしる、どちらにしてもこのパン種というのは影響を及ぼして行く。そういう意味で主はここでお使いになったのです。

イエス様がこの中でたとえを用いて言われたことは、確かに主の働きを邪魔しようとするサタンの働きがあるけれども、教会が大きくなって行くために、我々ひとりひとりには周りに影響を及ぼして行くという大切な責任があるということです。我々信仰者は、この世界にあって、人々に影響を及ぼす者たちであると言えます。もう既に私たちが学んで来たように、なぜ我々が地の塩であり、世界の光なのか――。我々は世に対して神がどんなにすばらしい方であるのかを明らかにする責任があります。つまり私たちの生きざまをもって神がどういってお方であるかを明らかにするわけです。

確かに教会は広がって行きます。もちろん教会の中にもこの救いを信じておられない方がいると先ほど我々は見て来ました。でも救われているあなたの責任は、それが教会であろうと世であろうと変わっていないのです。人々の前で影響を及ぼして行くことです。人々の前で主がどんなにすばらしいお方であるかということを明らかにし続けて行くことです。影響を及ぼしなさいと、我々は大切な務めをいただいているのです。

この次に出て来る二つのたとえも、実は今見たたとえと関連しています。5番目と6番目のたとえです。

マタイ 13:44-46

:44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。

:45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。

:46 すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。

5. 畑に隠された宝 44節

このたとえも当時の人々にとっては難しいたとえではなく、よく理解できるものでした。でも我々が見るとおもしろいですよね、なぜ畑に宝が隠されているのかと。実は当時人々は貴重品を地中に隠したのです。なぜかという、この地域は常に戦いがありました。いつ敵に攻められるかわからないので、人々はどこか安全なところに貴重な宝を隠しておきたい。それが地中なのです。マタイ 25 章で主人がしもべたちに5タラント、2タラント、1タラントを託して旅に出る話が出て来ます。1タラント預かった者はその1タラントを地を掘ってそこに隠しました。別にそれは珍しいことではなく、人々はそうしていたのです。イエス様はここでそれを引き合いに出してメッセージをお与えになったのです。その当時にはそういった律法が存在していました。例えば地を掘って見つかった宝は自分のものにするのできるのか、それともどこかに申告しなければいけないのか。そういうところにちゃんと律法が

定まっていたのです。なぜなら当時そういったことがなされていたからです。

ですから、最初のたとえば、ある人が畑を掘っている時に見つけたすごい宝を、そのまま見えないようにしておいて、その宝を自分のものにするために自分の財産を売り払ってその畑全部を買ったという話です。こういうことを当時の人々はやっていたのです。

6. 良い真珠を見つけた人 45-46節

二つ目のたとえば、良い真珠を見つけた話です。この当時も真珠はあったのです。真珠は非常に高価な物とした扱われていました。バークレーによれば、その当時真珠は「紅海の沿岸か、またイギリスだった」と言うのです。ですから、真珠を欲しがめる人々がいたわけです。そこで真珠の商人たちは真珠を探してあちこちを旅しました。そういったことが実際になされていたわけです。そしてこのたとえばも大変貴重な真珠を見つけたら、それを買うためにすべての物を売り払ってそれを買うと言うのです。なぜなら自分が買った値段よりも高い値段でそれを買う人がいるからです。それほど貴重な物として人々は真珠を扱っていたわけです。

さて、今二つのたとえばを見ましたけれども、この二つたとえの要点は、どちらも見つけた宝を得るために、喜んで犠牲を払ったということです。ではこの宝や真珠とは一体何か——。それは福音です。信仰によって救われるというすばらしい福音です。

この宝を見つけた人とよい真珠を探していた人の違いがおわかりですか？宝を見つけた人は宝を探していたのではないのです。片方の真珠を買った商人は真珠を探していたのです。恐らく皆さんの中にもこういった人々がおられると思います。ある人は余り福音にも関心がなくて聞くこともなかったし、救いに関しても余り関心もなく、必要を感じていなかった。でもある時に神様の導きによってこのすばらしい福音に触れて、神があなたのうちに働いてくださって、あなたがいかに罪深い存在であり、そしてあなたには救いが必要であることを悟らせてくださり、この救いへと導いてくださった。またある人はこの商人のように、ずっと真理を追求しておられたかもしれない。そしてやっとならないによる救いではなくて、イエス・キリストを信じる救いによって救われると真理を見出した。地の中に宝を見つけて畑を買った人、そして真珠をやっと探し当てて、真珠を購入した人、どちらもこの宝、この真珠の価値を知っています。それが余りにもすばらしいので、それを得るために喜んでどんな犠牲でも払おうとしています。そういったことがここに記されていました。

① 見つけた物の価値がわかった

つまり、この二つの教えは、まだイエス様のことを知らない人たちではなくて、信じている私たちに對するメッセージです。もう我々はこの福音のすばらしさを十分に知ったのです。そしてその救いが余りにもすばらしいゆえにいかなるものを犠牲としても、実はそれは犠牲ではない。このすばらしい宝を得るためだったら、この救いを得るためだったら喜んですべての物を犠牲にすると。そうやって皆さんは救いに与ったはずなのです。

パウロが「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。」(ピリピ3:8)と言いました。もう比較できないと言うのです。このイエス様を知ったこと、この救い、これほどすばらしいものは存在していないと。これまで彼が宝として来たこの世のさまざまなもの、それはこの救いに関しては全く空しいものだ。どんな宗教心を持っていても、自己満足はもたしても救いはもたらしません。あなたは自分がいい人間だと思っているかもしれない。でもあなたが思っているいい人間というその基準は神の前ではまだ不完全です。あなたはこれだけのことをして来たからと言われるかもしれない。でも神は不完全だと言われる。

② それを得ようと願った

パウロもそうだったように、あなたも一生懸命いろいろな形でこの救いを得ようとしたかもしれない。何とか生まれ変わろうと一生懸命努力していたかもしれない。何とかこの汚れた心が聖くなるように願っていたかもしれない。しかし、ある時にイエス・キリストの十字架を聞き、あの十字架が自分のためであったことを知り、そしてその喜びにあふれてこの救いをあなたはお受けになった。ちょうどパウロと同じように私たちもそのすばらしさを知っているゆえに、それ以外のものはもうゴミにすぎない。だって創造主なる神が私のような罪人のために自分のいのちを捨ててくださった。私たちもその救いのメッセージを聞いた時に彼らと同じようにそれを得ようと願いました。

③ その宝を、真珠を得るために、喜んですべてを売り払った マタイ19:29

そしてそのために喜んで犠牲を払おうと思いました。そのことを覚えると、マタイ19:29「また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。」、このみことばがよくわかるのです。イエス様はすべてを捨てなければ救われないという話をしたのでないのです。だって我々は両親を愛します。兄弟を愛します。イエス様が言われたことは、それ以上に私を愛するかということです。だって神です、救い主ですから。私たちはこ

の最も大切な方を選んだのです。自分の愛する親よりも兄弟よりも、ありとあらゆる者よりも主を愛するのです。

④ 宝を得た

そうして私たちはこの救いを得た。

まさにこのたとえが教えているように、そうして我々は救われたのです。だからクリスチャンというのは、救いの価値、そのすばらしさを知っている人だと言えます。ぜひ皆さんにチャレンジしたいことは、あなたはこんなふうにしてこの救いに与りました？主を愛するゆえに、もし主がそれを望まれるなら、喜んで主のためにすべてのものを犠牲にすることができます？ちょっと厳し過ぎると思われますか？ええ、救いは狭い門から入るのです。

なぜこんなことを言うかという、私は天国に行きたいからイエス様を信じます、そういった福音メッセージが主流になって来ている今、天の御国に入るにはどうしたらいいのかみことばが私たちに教えてくれていることは、残念ながら神様はもっと多くのものを要求されているということです。あなたの罪を悔い改めなさいということです。神に背いて来た生き方を捨てなさいと言うのです。そしてあなたを造られたまことの神に喜んで従いなさいと。その権利は神がお持ちです。当然の権利です。この方は我々を造られたのですから。皆さんの救いは本物ですか？間違いなくきょう死んでも天国に行きますか？あなたは絶対に救われていますか？もしあなたがこの救いに与っているなら、そして本当にこの救いの価値、そのすばらしさを知っているのであれば、当然このすばらしいメッセージを人々に語りたいと思いませんか？逆に語るはずでしょう？だってこの宝を見つけた者たちも、真珠を見つけた者たちも、彼らはそのすばらしい物を得た時に黙っていなかったはずです。喜びだからです。こんなすばらしい物を手にした。かつて私たちもそうやってすばらしい救いを宣べ伝えてきたのではないですか？今あなたの信仰はどうですか？

マッカーサー先生は「永遠のいのちという賜物を持っていながら、永遠の死という可能性しか今持っていない人にこのすばらしい救いのメッセージを伝えていない人は自己本位で愛のない者の典型である」と言っています。主ご自身がご自分のことではなくて、あなたのことを考えてくださったのだから、我々も自分のことではなくて人々のことを考えるのでしょうか？自分の愛する者たちが今どこに向かっているのか、なぜ地獄に向かっているのに黙っているのですか？いや、ずっと語って来たのだけれど聞いてくれないと皆さんあきらめていませんか？だから祈り続けることですが、今この瞬間に終わってしまったら自分の愛する者たちがどこで永遠の苦しみを味わうのか、私たちはそのことを知っています。私たちはすばらしい宝を得た者として、すばらしい知らせ、このすばらしい福音のメッセージを人々に喜んで語り続けることです。

7. 地引き網 47-50節

その話をされた後、7番目のたとえです。

マタイ 13:47-50

:47 また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。

:48 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。

:49 この世の終わりに也是这样になります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、

:50 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。

① この世の終わりのこと

② 御使いたちによるさばきのこと (40・49節)

このたとえが教えていることも明白です。地引き網で魚を捕った時に、いろいろな魚が網の中に入っています。そこで漁師は魚を見て、良いものと悪いものに分ける、その光景です。恐らく多くの人々がガリラヤ湖で見ていたのでしょう。その彼らがよく知っていることを用いてイエス様は主によるさばきがあるという大切なメッセージを与えられた。「正しい者の中から悪い者をえり分け、火の燃える炉に投げ込みます。」と書いてあります。ちょうどよい麦と毒麦とが分けられるように、この時人々が悪い者と正しい者の二つに分けられるのです。悪い者とは、主を、またそのとうとい救いを拒み続けた未信者の話です。神様の救いがあるということを聞いていながらその救いを拒んだ者たちです。彼らには永遠のさばき、地獄が望みどおり与えられます。望んでいるように与えられます。正しい者とはクリスチャンたちです。彼らは約束どおり永遠のいのちが与えられます。

③ さばかれる者たちを待つさばきのこと (42・52節)

☆ 地獄の異なった痛み：ヘブル 10:28-29；マタイ 11:22-23

少し余談になりますが、地獄でのさばきに違いがあることをご存知ですか？みんなが一樣に同じ痛みを経験するのではないのです。地獄の中で苦しむ人々の間には違いがあるのです。大変な痛みをする人々、痛みの中でももっと悲惨な痛みを経験する人々はどういう人々なのをみことばが私たちに

教えています。救いのメッセージを知っていながら、その救いのメッセージをみずからの意思で拒んだ人たちです。主イエス・キリストが十字架で死なれたこと、よみがえられたこと、ご自分がいのちを犠牲にして私たちに救いを備えてくださったこと、このとうとい十字架を見てそのメッセージを知っていながら、そのメッセージを拒み続けるのです。その救いを軽蔑するのです。その救いを侮るのです。みずからの意思で神に逆らう者、その人に対しては、より厳しいさばきが約束されています。もしここにまだイエス様をお信じになっていない方がおられたら、あなたは聞かなければいけない。この警告を神様はあなたに対して与えておられます。なぜならあなたは福音のメッセージをもう何度も聞いておられます。何度もそのメッセージから教えを受けてきました。しかし、それでもまだあなたはその救いを拒み続けている、このイエス・キリストに背を向け続けるというのは、神様のみことばによるならば、あなたはただ地獄に行くだけではない。その後で最も厳しいさばきを受けると。

さて、もう一度このテキストを見ると、49-50節のみことばは、きょう私たちが見て来たテキスト、41-43節のみことばと同じことが教えられています。御使いたちによって、悪い者は選り分けられて、そして彼らは火の燃える炉に投げ込まれ、彼らはそこで泣いて歯ぎしりすると。これは主によって強調されているのです。つまりこのたとえの中でイエス様が強調されたことは実は地獄なのです。この永遠のさばきをイエス様は強調なさったのです。必ずどちらかだと言われたのです。最近、地獄のメッセージよりも天国のメッセージが多いです。さばきよりも救いの話です。なぜかという、さばきのメッセージは責められるばかりだから余り聞いていて快くない。だから、ある人たちは言うのです。教会に来た時は責められるメッセージではなくて、聞いていてもっと心がほっとするような、慰められるようなメッセージが聞きたいと。この地獄のメッセージを聞きたくない人はたくさんいるかもしれないけれども、残念ながら、このメッセージはすべての人々が聞かなければいけないメッセージです。なぜなら主はここでそのことを強調されたのです。

★ 弟子たちへの勧め

結論：主イエスの警告

① クリスマンに対して

・ 自分の信仰の吟味を怠らないこと

イエス様がこうして繰り返し永遠のさばきと地獄の話をされた。ということは我々ひとりひとりが今よく考えなければいけないのは、自分自身はきょう死を迎えた時にどこに行くのかです。常に自分を吟味しなければいけないということです。なぜ聖書の中にこれほどまでに吟味することを繰り返し教えているのか、なぜ多くのクリスマンだと思っていた人々が実はそうではなくて、天国ではなく地獄に行くのか、そういうことが記されているのか、悲しいことにそういうことが将来起こるからです。そんなことが私たちの群れの中で起こってほしくない。そのためにどうしなければいけないか——。クリスマンらしく振る舞うのではないのです。まずあなたが自分に対して正直にならなければならない。本当に私はこのイエス・キリストの救いをいただいているのかどうかです。

・ 信仰の成長に努めること

そしてもしあなたが本当に救われているのだったら、あなたは喜んでその信仰において成長したいと望んでおられるはずです。神によって救われた人が成長に関心がないということはありません。神によって救われた人が変わらないということはありません。神によって救われた人は変わるのです。神が働いておられるから。

この13章の中でイエス様はたとえでもって話しておられる。なぜたとえで話すかというと、人々が信じないからです。イエス様の話を聞いても、奇跡を見ても信じない人がいるのです。一番最初のたとえを見た時に、多くの人たちがイエス・キリストの教えに対して共感しました。喜んでその話を聞きました。でも残念ながら救われていなかった。あなたの救いを吟味した上で、あなたが本当に救われているのなら、あなたは主にあって成長したいと喜んでそのことを望んでおられるはずです。なぜなら一番最初のたとえの中で、良い地に蒔かれた種は多くの実を結ぶのです。救われたからです。

・ 惑わされないこと

救われた皆さん、惑わされてはいけません。サタンの惑わしは常にあります。しっかりとみことばに立つことです。

・ 救いのすばらしさを忘れないこと

・ 救いを伝え続けること

・ 地獄を忘れないこと

★ ルカ 18:8

イエス様はルカ 18:8で「人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」、こんなことを言われた。非常に恐ろしいメッセージです。イエス様が帰って来た時に、そこに信仰があるかと。だから

吟味しなければいけないのです。

きょう私たちはマタイ 13 章のみことばから、イエス様が与えられた天の御国についてのたとえ話を見て来ました。あなたはちゃんとこの天の御国に入る約束をいただいていますか？それとも神様によってその罪が永遠にさばかれるのでしょうか？どうぞご自分の心を吟味して、神様が備えてくださったこのすばらしい救いを心から喜び、心から感謝し、そしてこの救いを心から受け入れて、この方に喜んで従う者として歩む決心をなさる事です。主イエス・キリストをあなたの神として、あなたの救い主として、そしてあなたの主人としてこの方に従って行く決心をなさる事です。そうして、この偉大な神様の救いを宣べ伝える者として歩み続けて行くこと、そのことを主は私たちに望んでおられる。どうぞそのような者としてこの神様のすばらしさをこの一週間、それぞれのところで証して行きましょう。

《考えましょう》

1. 「良い麦と毒麦のたとえ」を、あなたのことばで説明してください。
2. 「泣いて歯ぎしりする」とは、どういう意味なのかを説明してください。
3. これらの「たとえ」が教えることは何でしょう？
4. 主はあなたに何を求めておられると思いますか？あなたが教えられたことを記してください。